

★ 2学期は、このような教材と内容項目で授業をしました ★

	1年生 (17時間)		2年生 (16時間)		3年生 (17時間)	
	教材	内容項目	教材	内容項目	教材	内容項目
8・9月	あのハチドリのように	自然愛護	明かりの下の燭台	よりよい学校生活、集団生活の充実	ピヨ子	自主、自律、自由と責任
	アップルロード作戦	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を受ずる態度	仏の銀蔵	遵法精神、公德心	席を譲られて	礼儀
	曙号の死	生命の尊さ	嵐のあとに	友情、信頼	てんびんばかり	勤労
	音を宿す	我が国の伝統と文化の尊重、国を受ずる態度	小さなこと	自主、自律、自由と責任	アイツの進路選択	友情、信頼
	島耕作 ある朝の出来事	遵法精神、公德心				
10月	夜のくだもの屋	思いやり、感謝	ネパールのビール	よりよく生きる喜び	月明りで見送った夜汽車	思いやり、感謝
	加山さんの願い	社会参画、公共の精神	加奈子の職場体験	勤労	母と子のロードレース	家族愛、家庭生活の充実
	ミスター・ヌードル—安藤百福—	真理の探究、創造	尊い玉子	家族愛、家庭生活の充実	ドナー	生命の尊さ
	美しい母の顔	家族愛、家庭生活の充実	人間であることの美しさ	感動、畏敬の念	元さんと二通の手紙	遵法精神、公德心
	吾一と京造	友情、信頼	傘の下	遵法精神、公德心	虹の国—ネルソン・マンデラー—	公正、公平、社会正義
11月	地下鉄で	思いやり、感謝	お前のカワウンがさびしがっているぞ	自主、自律、自由と責任	風に立つライオン	希望と勇気、克己と強い意志
	国際協力ってどういうこと？	国際理解、国際貢献	路上に散った正義感	公正、公平、社会正義	二人の弟子	よりよく生きる喜び
	ネット将棋	自主、自律、自由と責任	天使の舞い降りた朝	生命の尊さ	ほっちゃんれ	感動、畏敬の念
	銀色のシャープペンシル	よりよく生きる喜び	タッチアウト	よりよく生きる喜び	カントとルソー	自主、自律、自由と責任
12月	人に迷惑をかけなければいいのか？	遵法精神、公德心	最後の年越しそば	思いやり、感謝	ある元旦のこと	思いやり、感謝
	ある日のバッテリーボックス	公正、公平、社会正義	国	我が国の伝統と文化の尊重、国を受ずる態度	海と空—樺野の人々—	国際理解、国際貢献
	語りかける目	生命の尊さ	家族写真	家族愛、家庭生活の充実	ベビーカー論争	遵法精神、公德心
					運命の木—姫路城の大柱—	我が国の伝統と文化の尊重、国を受ずる態度

道徳通信

2019/12/23

No.8

東中筋中学校

二学期の道徳授業も、二十四日の三年生の授業で最後です。どの学年も、ペアや班、全体での意見交流がスムーズで、毎時間前向きに取り組むことができました。

授業では、お互いの顔を見ながら意見交流ができるように、コの字型やV字型に座席を配置する学年があります。また、先生が指名するのではなく、自分たちで発言する人を当てていくことをすることもあります。みんなの意見を一度に見られるように、ペアで話したことを短冊に書いて黒板に張ることもあります。このようなことをしながら、「考え、議論する道徳」の授業を進めてきました。

第三回の道徳意識調査では、「道徳の勉強は好きだ」「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。」の質問に肯定的回答をした人が、どちらも97.4%で、年度当初より多くなりました。その中で、「道徳の勉強は好きだ」と答えた理由として、「だいたい発表ができたから」と書いた人がいました。道徳の授業だけでなく、すべての教科でみんなが発表し合うことを続けてきた成果がでてきているのではないかと、うれしく思いました。

このような成果や取組を受け、三学期はさらに充実した授業を目指していきたいと思えます。

今年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。



「家庭で取り組む 高知の道徳」(改訂版)

には、「郷土の偉人」のページが新たに加わりました。ここには、郷土の偉人として十五人が紹介されています。それとともに、それぞれの業績やエピソードをもとにして創作された文章が掲載されています。冬休みは家庭で過ごす時間も増えるので、この機会に、家族で自分の郷土や高知県から輩出された偉人の話に触れてみてはどうでしょうか。この紙面で紹介した以外に、牧野富太郎、佐竹音次郎、崎山比佐衛、板垣退助、中浜万次郎、坂本龍馬、岩崎弥太郎、大原富枝 が取り上げられています。皆さんは十五人のうち、何人を知っていますか。



森田 正馬
 (明治七年) (昭和十二年)
 「一八七四〜一九三八」

日本の医学者、精神科神経科医。神経質に対する精神療法である「森田療法」を創始。香南市野市町生まれ。



寺田 寅彦
 (明治十二年) (昭和十三年)
 「一八七八〜一九三五」

「天災は忘れたころにやってくる」——日本を代表する物理学者の寺田寅彦の言葉。自然科学と文学を融合させた随筆を数多く残す。夏目漱石との親交が深く、漱石の作品にも登場する。

写真：高知県立文学館



田内 千鶴子
 (大正元年) (昭和四十三年)
 「一九一二〜一九六八」

大韓民国(通称「韓国」)で孤児救済のために生涯をかけた女性。韓国の動乱と時代の荒波に翻弄されながら孤児たちを守り抜いた。「韓国孤児の母」と呼ばれる。

写真：社会福祉法人 こころの家族



見性院
 (弘治三年) (元禄三年)
 「一五五七〜一六一七」

土佐国土佐藩初代藩主、山内一豊の正室。夫に名馬を買わせるために大金を差し出したエピソードは、賢い妻の逸話として有名。

肖像画：高知県立高知城歴史博物館所蔵



野中 兼山
 (元禄元年) (寛文三年)
 「一六一五〜一六六三」

江戸時代初期の土佐藩家老。農民らを工事に従事させ、物部川の山田堰や仁淀川の八田堰、宿毛の河戸堰など、各地に用水路をつくり、後世の園芸王国の基盤をつくる。



武市 半平太
 (文政十二年) (慶応元年)
 「一八二九〜一八六五」

優れた剣術家。尊王攘夷と拳藩勤王を掲げる土佐勤王党を結成。京都における尊王攘夷運動の中心的役割を担った。

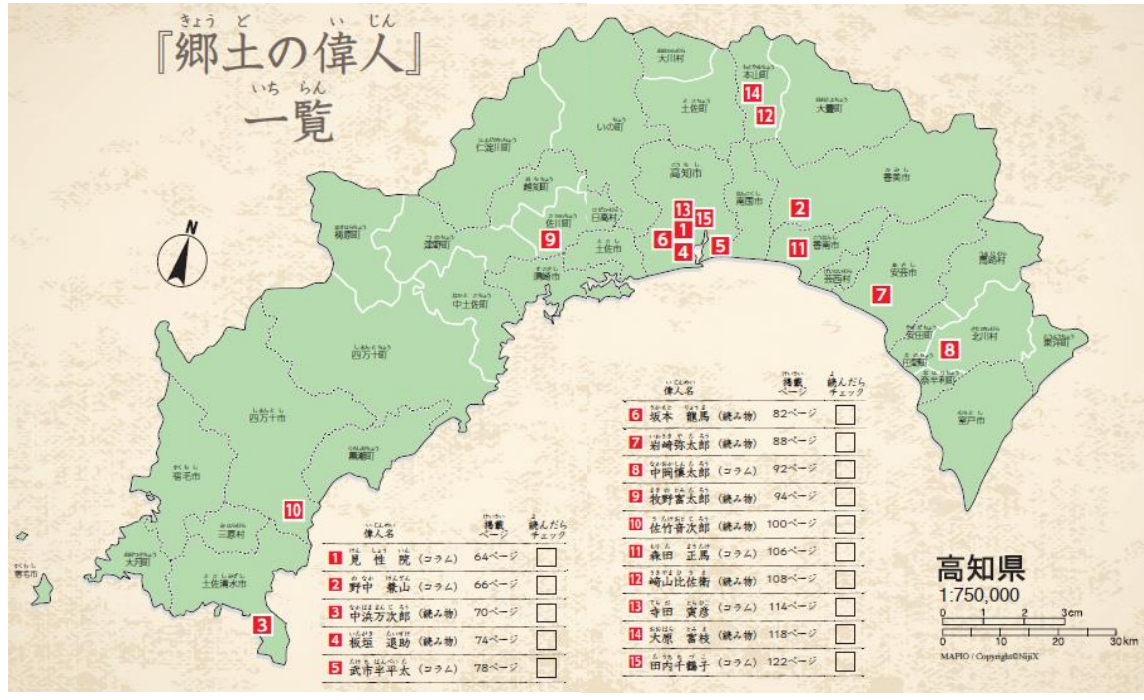
肖像画：高知県立高知城歴史博物館所蔵



中岡 慎太郎
 (天保九年) (慶応三年)
 「一八三八〜一八六七」

土佐勤王党に加盟。京、江戸で活躍のち脱藩。長州へ赴く。坂本龍馬と共に京都で暗殺される。

写真：中岡慎太郎館蔵





牧野 富太郎 (文政二巻) (明治三十五年)
 佐川町出身。独学で植物についての研究を深め、「牧野日本植物図鑑」を刊行。「植物図鑑」としてこれより優れたものはない」と世界中から高い評価を得、日本植物学の土台を築いた。
 写真：高知県立牧野植物園所蔵



佐竹 音次郎 (元治元) (昭和十五年)
 四万十市出身。東京で医者になり、神奈川県鎌倉市で医院を開業する傍ら、児童養護施設を開く。「保育」という言葉を初めて使い、子どもを育てることは国の使命であることを多くの人に広めた。
 写真提供：保育の父・佐竹音次郎に学ぶ協会



崎山 比佐衛 (明治八年) (昭和十六巻)
 本山町出身。明治期から昭和にかけて、国内の就職難の解決策を南米移住に求め、東京に「海外植民学校」を創設。役員名簿には、淡沢栄一、浜口雄幸など当時の政財官や軍の重鎮らが名を連ね、比佐衛の植民事業は大きな注目を集めていた。



板垣 退助 (天保八年) (大正八年)
 明治政府を動かす中心人物として活躍。高知に立志社を設立するなど自由民権運動をリード。自由党総理になり、その後、大隈重信と内閣を組織。「板垣死すとも自由は死せず」の言葉は有名。
 写真：高知市立自由民権記念館提供



中浜 万次郎 (文政十巻) (明治三十一年)
 江戸末期、十五歳のときに太平洋に漂流。アメリカの捕鯨船に救助されたのをきっかけにアメリカに住み、英語を覚え、世界の先進的知識を吸収。帰国後、明治維新を中心に新国家づくりに活躍した。
 画像提供：ジョン万次郎直系五代目 中浜京



坂本 龍馬 (天保六巻) (慶応三年)
 明治維新を実現させるといふ「日本の夜明け」を実現させたリーダー。海援隊を組織、龍馬のまとめた「船中八策」は大政奉還を軸に日本国憲法を定めることなどを唱えた。三十三歳で暗殺された。
 写真：高知県立坂本龍馬記念館提供



岩崎 弥太郎 (天保五年) (明治十八巻)
 三菱財閥の創始者。幼いころから秀才で、藩主にも認められ、やがて土佐藩のビジネスをまかされるようになる。明治維新後も海外との貿易に情熱を燃やし続け、「東洋一の海運王」になった。
 写真：安芸市立歴史民俗資料館



大原 富枝 (大正元年) (平成十巻)
 小説家。高知師範学校在学中に結核にかかり、中退。十年近い療養生活の中で小説を書き始める。「婉」という女で毎日出版文化賞および野間文芸賞を受賞。世界各国で翻訳出版される。
 写真：本山町立大原富枝文学館